

令和4年度

親子広島バスツアー

～平和・非核学習の旅～

感想文集

令和4年(2022年)8月5日～6日



原水爆禁止西宮市協議会
西 宮 市

も く じ

感想文集発行にあたって		……………	1
「被爆体験の継承」を担う人材の育成を！			
	西宮市原爆被害者の会	武居 勝敏	…………… 2
親子で戦争と平和を考えるバスツアー			
	西宮市原爆被害者の会	安田 頼子	…………… 3
原子爆弾と人々の悲しさ		秋田 智哉	…………… 5
平和記念公園を訪れて		秋田 有美子	…………… 5
今回 広島に行って思ったこと		遠藤 仁之介	…………… 7
親子広島バスツアーに参加して		遠藤 直子	…………… 7
親子広島バスツアーに参加して		大藤 宋介	…………… 9
親子広島バスツアーに参加して		大藤 正也	…………… 9
バスツアーを通して思った事		小川 樟也	……………11
親子広島バスツアーに参加して		小川 智絵	……………11
親子広島バスツアーに参加して		尾上 芯	……………12
親子広島バスツアーに参加して		尾上 久志	……………12
親子広島バスツアーに参加して		海徳 優奈	……………13
親子広島バスツアーに参加して		海徳 真央	……………13
広島バスツアーに参加して		小林 蒼依	……………15
広島親子バスツアーに参加して		小林 志帆	……………15
広島バスツアーに行ったこと		近藤 信太郎	……………16
「感じる」から始まる		萩原 真	……………16
命の大切さ		小志田 茉奈	……………17
親子広島バスツアーに参加して		小志田 悠史	……………17
親子広島バスツアーに参加して		小志田 稚枝	……………18

親子広島バスツアーに参加して	徳永 茉奈	……………19
親子広島バスツアーに参加して	徳永 明実	……………19
親子広島バスツアーに参加して	樋川 開世	……………21
親子広島バスツアーに参加して	樋川 洋子	……………21
「親子広島」バスツアーに参加して	松本 一汰	……………21
親子広島バスツアーに参加して	松本 風花	……………22
「親子広島バスツアーに参加して」	松本 凜華	……………22
親子広島バスツアーに参加して	水田 志穂歌	……………23
親子広島バスツアーに参加して	水田 奏志	……………23
親子広島バスツアーに参加して	水田 武志	……………23
広島に行って思ったこと	三好 蒼空	……………24
「平和」	三好 真季	……………24
「真夏のヒロシマバスツアー」	村上 蓮	……………25
「建物疎開という言葉を知って」	村上 雅彦	……………25
「親子広島バスツアーに参加して」	森崎 友惟	……………27
親子広島バスツアーに参加して	森崎 聖美	……………27
令和4年度 親子広島バスツアー行程表		……………28

感想文集発行にあたって

西宮市長・原水爆禁止西宮市協議会会長

石井登志郎



本市は昭和 58（1983）年 12 月 10 日に「平和非核都市宣言」を行い、平和を愛する社会をはぐくみ、築くことを誓いました。また平成 22（2010）年には、平和首長会議に加盟し、国内外の都市と連携して核兵器のない平和な世界の実現への取り組みを進めているところです。「親子広島バスツアー」は、平和の大切さについて親子で考えていただく機会として、原水爆禁止西宮市協議会と市が、昭和 63（1988）年より毎年実施しておりましたが、過去 2 年は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりやむなく中止となり、今年は 3 年ぶりの開催となりました。

今回で 33 回目を迎えた「親子広島バスツアー」では、原爆ドームや広島平和記念資料館の見学、平和記念式典などを通して、改めて戦争の悲惨さ、平和の大切さを考えていただけたのではないのでしょうか。

戦後 77 年が経過し、戦争を体験された方が高齢になられている現在、次世代へ平和を継承していくために、過去を学び、知る努力をしていくことが必要です。

「親子広島バスツアー」に参加された皆さんには、この 2 日間で得た経験や思いを多くの方に伝えていただき、核兵器の廃絶、恒久平和の実現に向けて、歩んでいただけることを切に願います。



原爆ドーム前での集合写真

「被爆体験の継承」を担う人材の育成を！

西宮市原爆被害者の会 武居 勝敏

今年で33回目の親子広島バスツアー。コロナで3年ぶりの開催。コロナ第7波の影響もあり7名3家族が欠席し、37名17家族が参加。随行は西宮市2名、西宮市原爆被害者の会2名。

8月5日午前8時半、西宮市役所前で出発式。石井登志郎市長のご挨拶があり出発。車内では自己紹介と参加の抱負、DVD鑑賞、被爆体験講話、被爆クイズなどを行った。午後2時過ぎ平和公園に到着。原爆の子の像、原爆ドーム、島外科病院、被爆アオギリ、原爆資料館を見学した。原爆の子の像では市民が折ったいくつもの千羽鶴を親子で奉納した。

夜は被爆体験記・原爆詩の朗読会を行った。広島原爆死没者追悼祈念館から派遣された3名の朗読を聞き、子供たちも朗読した。

翌朝6時起床。朝食を済ませ6時40分ホテル出発。今年はコロナの影響で平和祈念式典中の立ち入り規制により、式典には参加できず。原爆の子の像前で式典の雰囲気味わうことになった。式典終了後、規制は解除され「安らかに眠ってください 過ちは繰り返しませんから」と刻まれた慰霊碑に参拝。その後自由行動となり約半数が平和公園内の碑巡りに参加した。終了後路面電車で移動して福屋百貨店に立ち寄り、「お好み村」で昼食。繁華街を歩き平和公園へ移動。午後1時過ぎにバス出発。西宮市役所前へ18時半無事到着した。平和漬けの二日間、新たな学びの機会になったと思います。

「未来の子供たちに、戦争と核兵器のない世界へ」これが私のモットーです。

今年で被爆77年目を迎え、国民の85%が戦争を知らない世代となりました。記憶も薄れつつあります。「被爆体験の継承」、次の世代に如何に伝えるか。その育成が急務です。

やがて被爆者がいなくなる時が来ます。原爆がどれほど恐ろしく、悲惨で、愚かなことか。今なお世界には一万三千発もの核兵器があります。「親子広島バスツアー」に参加された方の中から「被爆体験の継承」に関心を持ち、担う方が生まれることを望みます。ご参加お疲れさまでした。



原爆の子の像への折り鶴奉納

親子で戦争と平和を考えるバスツアー

西宮市原爆被害者の会 安田 頼子

日々ロシアによるウクライナ侵攻のニュースに核兵器・核戦争への使用を危惧するこの頃。

平和非核都市西宮市と原水爆禁止西宮市協議会から恒例の親子広島バスツアーに被爆者として同行させて頂きました。

参加者は、小中学生 20 名 保護者 17 名 市職員 2 名、被爆者 2 名の計 41 名。

8 月 5 日 8 時 30 分西宮市役所前に集合、石井市長の御挨拶後、昼食、休憩をとりながらバスで広島市原爆平和記念公園に到着。

私は当時 1 歳、母と志和町に疎開し父のみ比治山下の爆心地より 2 k m の自宅に居て被爆。未だに父の遺骨は無く瓦礫の下より見つけた母の見覚えのあるふすまの曳き手金具がお墓に眠っています。毎年小さいころは母に手を引かれ、後には私が母の手を引きお墓とする慰霊碑の父に会いに来ます。

中学時代の恩師である被団協の坪井直先生は 20 歳で被爆、生徒は被爆火傷の跡がある先生を親しみを込めてピカドン先生と呼んでいました。背筋を真っ直ぐ伸ばして教壇に立ち被爆体験を語り反核平和を訴え続けた先生、ネバーギブアップの精神の持ち主ですが昨年とうとうお迎えが来てしまいました。悲しい限りです。

ツアーで一緒の若い親子の参加者には学校の平和教育、本、DVD 等の学習により資料館展示の火傷の被爆者の写真を見ても、気持ち悪いではなく大変だったんだねと、気遣う気持ちに安堵しました。

世界遺産の原爆ドーム、原爆死没者の眠る慰霊碑、原爆資料館、原爆直下の島外科病院、平和公園、原爆アオギリ、原爆の子の像には持参した折り鶴を手向け、夕食後はボランティアの方の被爆体験の朗読会、親子で平和、非核についての学習会です。

8 月 6 日は 8 時からの原爆祈念式典、岸田首相やグレーテス国連事務総長等が出席され、核兵器が三度使われないよう、原爆死没者への追悼と共に核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願いました。

生き残った者の使命としてこの穏やかな日常が続きますよう過去を学び知る努力をしたいと思います。

盛り沢山のツアーでしたが何事も無く楽しく終わりました。

企画、実行して下さった市役所の方々には大変お世話になり有難かったです。



原爆の子の像

原子爆弾と人々の悲しさ

秋田 智哉

一瞬にして14万人の命が失われた。

忘れもできない1945年8月6日の朝、8時15分だった。天気は快晴。しかし、何発もの黒い雨が広島の人々の命を奪った。

そして僕の記憶に良く残っているのが、平和記念資料館にあった三輪車だった。

黒こげの三輪車だけでどれだけの被害が出たのかが一目でわかりたくないものが分かってしまった。奇跡的に助かった人、多くの人の命をと思い返しても現実に起きてしまった事だ。

この広島ツアーのあと世界遺産の本を読み、戦争前の広島の人、産業奨励館がどれだけ平和だったのだろう。

そしてあの戦争のとき戦っている人たちはどう思っていたのだろう。

そして月日は流れていき、産業奨励館を壊す意見も出たのだが、永遠の平和を願って残された。世界初の建物と知って、とても悲しく思ってしまった。もし、産業奨励館が残されていなければ、世界ではまた戦争をしていたのかもしれないとも思った。

戦争のあとの話に戻る。焼け崩れた広島町。しかし目の見張る速さで広島の街は復興した。2日後には日本銀行の広島支店が再開し、3日後には地元の中国新聞社から新聞が発行され路面電車も約1kmの区間の運転を再開した。

そして焼け野原になった爆心地周辺は、熱線による高熱火災と、激しい爆風で一面が、がれきだらけとなってしまった、その中でも壁と鉄骨だらけの広島県産業奨励館は残っていた。

広島県産業奨励館は6年の年月がかかったといわれている。その6年の努力が、原爆の1機だけで失われてしまったのだ。

この学習で僕が思ったことは原爆でこんなにも命が欠けるということだ。

永遠の平和をという思いがどれだけ強かったのだろう。僕たちは戦争の恐ろしさを知らないが戦争に立ち向かい必死に平和を取り戻そうとした人たちは原爆の恐ろしさというものを、知っている。平均年齢がどんどん高くなってしまいが1度でいいから戦争に立ち向かった人にお話を聞いて、いずれ僕たちがリードする時代に役立たせてみんなに広島の過酷さ、そして平和の文字が明るく見えるようにバトンをつないでいきたい。そんな思いが泣きながら浮かんできた。また来年に広島に行くので、学年みんなと平和についてもっと詳しく知りたいです。

平和記念公園を訪れて

秋田 有美子

子供が学校から持ち帰ったチラシがきっかけでした。

親子で参加できること、被爆体験者のお話が聞ける事など、「貴重な体験ができる」、と、広島を訪れた事の無い私には、とても興味深いものでした。

出発の朝、小雨降る中での出発。現地での天候も危ぶまれましたが、平和記念公園に到着すると、雨は止んで青空の良いお天気でした。

訪れるまでの「平和記念公園」へのイメージは、核兵器のない世の中と、原爆で一瞬にして命を奪われた人々のご冥福を祈り、悲惨な出来事を忘れないために造られた公園、というものでした。現地に着くと、広く、緑の多い綺麗な公園でしたので、元繁華街であった事は全く想像できませんでした。恥ずかしながら、公園が元繁華街であったと言うことを知らず、今回のツアーで教えて頂きました。原爆ドームを見て爆風の凄まじさを見ました。資料館で、被爆した広島土地や人々の様子を見ました。何とも言えない無力感でした。

8月6日の平和記念公園での式典に参加するため、ホテルを早朝に出発しました。しかし、コロナ感染対策・警備上の問題などから、残念ながら参列する事ができませんでした。式典の会場が見える原爆の子の像前で、少しでも音が聞こえないか、式典の様子が分からないか、と待機していました。様子を伺い知ることはできませんでしたが、8時15分、様々な想いと共に黙祷を捧げました。

平和記念公園には、沢山の碑がありました。このような碑が点在することも知りませんでした。訪れてみて「初めて知る事」が沢山ありました。

平和記念公園は、色々な想いが集まっている様に感じました。記念資料館前の噴水が空高く噴き上がっていました。何かを吹き払うような、空に何かを届けるような、そんな風に見えました。これを機会に、また、平和について考えてみようと思いました。このツアーに参加できて本当に良かったです。子供にも、私にもとても貴重な体験になりました。お世話になりました皆様、ありがとうございました。



被爆した墓石

今回 広島に行って思ったこと

遠藤 仁之介

広島に行って思ったことは、まず一つ目は原爆の恐ろしさです。

原爆記念館で当時、被爆した人の衣服やその時の話とかをみて原爆の恐ろしさを感じました。600mも上で爆発したのに、14万人の人が亡くなっているのです。あとは長崎だってほんの数%しか威力が出ていないのに7万人の人がそれではなくなっているのです。100%爆発してたら長崎どころかちがう県にまで被害が出でいたのかもしれないとおもうとすごく怖いです。

続いては2つ目です。個人的な感想なんですけど、平和式典のときはひとがたくさんいて、千羽鶴もたくさんありました。

3つ目は、今から77年前に被爆して、そのあと何もなくなって更地だった広島は被爆前みたいにもどってて原爆が落とされたのが嘘のように感じました。あとは被爆直後は死体の川になってた川も今は嘘みたいにきれいでした。

最後に世界にはまだまだ核爆弾があります。

起爆したら爆風が地球三周半する核爆弾がロシアにあるとかないとかそして広島を見て思いました長崎を最後の被爆地でありたいと...

親子広島バスツアーに参加して

遠藤 直子

リニューアル後の資料館は初めて来ました。

怖いと言われてた人形たちはなくなり、そのかわり原爆が投下される前の美しい広島が再現されていました。

街に路面電車が走り、賑やかで人々が生活していた家並み・・・でもこれが美しいほど、一瞬にして人間の手によって奪われたことにかえって恐ろしさと、いけないことだろうけど憎しみが湧いてきました
なぜこんなことができるのか。

8時15分という人間が動き出すこの時間帯を狙ってアメリカは原爆を投下したそうです。ミサイルの落とされた先には、資料館に並べられたあの小さな服を着た子や三輪車に乗った子供たちがいるのに。

どうすれば平和を守ることができるのでしょうか、あの小さな子供達をあんな目に合わさなくて済むのでしょうか。

戦争が憎い、平和がいい。ここまでは皆同じなのだけれど、
では平和でいる為にどうすればいいか、そうなると意見が分かれてしまいます。

平和でいる為に、徹底して核廃絶を訴える人
侵略されない為に自らも核を持とうと言う人

原爆を落とされた側が、考える平和。とても難しいです。

核を持つ国に持たないことで対抗するのは、時に無責任・頭がお花畑など言われてしまいます。確かに一理あるのかもしれませんが、でも私は核を持つ側にはなりたくありません。

展示されていた血の付いた衣服、本、ひしゃげた水筒、弁当箱、被爆したこれらの日用品にはもちろん使用した人がいて、そしてその人を大切にしている誰かがいて、その誰かが血まみれになった衣服を大事にとって置いたものが今、並んでいるのです。

亡くなった人間は1人でも、苦しんだ・泣いた人間は1人ではないのです。

原爆が奪うのは被爆された人の一生のみならず、その人を愛する人々の未来を根こそぎ奪うことだと思ふのです。それを「正義」と言う側に私は立ちたくはないのです。

そうなる前にやれること、それにはまず「知ろうとする」ことではないでしょうか。

何があったのか起ころうとしてるのか知り、止めようのない過去の出来事ならば、口にするのが辛くとも二度と起こらぬように「伝える」、そして止めれる未来のことならば声を上げる。

うっとうしがられるでしょうし、友人に話す時は勇気もいるでしょう。

話を聴いてもらえる様に工夫もしなければならぬでしょう。

平和でいるということは、面倒くさく難しいものですね。

それでも8/6の広島、8/9の長崎のようなことが二度と起こらないようにするため、自分に何ができるか、動かなくてはならない時がきていると思いました。



原爆供養塔

親子広島バスツアーに参加して

大藤 宋介

ぼくは、このツアーに参加して初めて広島に来ました。広島に行く時、バスの中でクイズやいろいろしてくれました。

原爆ドームをその場で見れたのがうれしかったです。だけど、あの一発の力で原爆ドームのような大きなたて物がボロボロになる原子爆弾の恐ろしさがしっかり分かりました。

夏で少し暑かったけれど、人生で一度しか体けんできそうになさそうなきちょうな体けんが今回できました。

親子広島バスツアーに参加して

大藤 正也

今回、参加させていただいたきっかけは息子からで、姉たちが修学旅行で見た原爆ドームや資料館の話を聞いて興味を持ったようでした。おそらくまた修学旅行で行くとは思いましたが、今の年齢で感じることは、その時はまた違うのではないかと思ひ応募しました。

行きのバス車内では、DVD鑑賞や被曝体験を西宮市原爆被害者の会の武居さんからお話がありました。DVDでは西宮市の空襲の話があり、43号線以南でもかなり激しい空襲があったのを知り衝撃でした。武居さんのお話は、今まで実際に被曝された方からお話を聞いたことがなかったので、原爆の悲惨さを改めて実感しました。バスの中では、そのほかにも盛り沢山の内容で長時間のバス移動もあつという間でした。

広島市内に到着し、原爆投下の目標になったというT字型の珍しい橋、相生橋を渡り平和記念公園に到着しました。最初に参加者の皆さんと折り鶴の奉納をしました。バスツアー参加日の少し前から家族みんなで折った折り鶴を奉納したのですが、数えきれない折り鶴が奉納されており圧倒されました。全国の人たちの平和を願う想いを見た気がしました。そのすぐそばにある原爆の子の像。この後平和記念資料館で、この像ができるきっかけになった中学1年の佐々木禎子さんのことが紹介されている展示を見て、ショックを受けました。この他にも平和記念公園内には、様々な碑があります。その中でも印象的だったのは平和の灯火です。「核兵器が地上から姿を消す日まで燃やし続けよう」という反核のモニュメント。その厳かな佇まいには息をのみました。いつの日か灯火が消えることを切に祈ります。

原爆ドームは、中学生の時に見た以来。恥ずかしながら当時そこまで印象に残った訳ではなかったのですが、30年ぶりに見た原爆ドームは被曝した77年前からここで変わらずずっと原爆の惨状を訴えていたのかと思うと感慨深いものがありました。

平和記念資料館では、原爆の悲惨な惨状を写真や展示物で紹介しており、77年経った今でも風化されることなく見るものに訴えかけてきます。絶対にこんなことを二度としてはいけないと。実際にみる展示物はテレビや冊子などで見るのとは全然違い、この場所で実物を見て惨状を知ることが何より大切であると強く思いました。次に訪れる機会があれば、

被曝者証言ビデオなどじっくりと見てみたいです。

夜、夕食後に地元ボランティアの方による被爆体験記・原爆詩の朗読がありました。どの作品も胸をうつものがあったのですが、中でも印象に深く残ったものがあります。“目の見えなくなった母親が 死んでる子どもをだいて 見えない目に 一ばい涙をためて泣いていた おさないころ 母に手をひかれてみたこの光景が あの時のおそろしさとともに 頭からはなれない”「やけあとで」水川スミエさんの作品です。情景がそのまま目に浮かぶ、子を持つ親として胸につまる作品でした。

2022年8月6日、77年前、原爆が投下されたこの場所に参加者の皆さんと向かいました。今回は、残念ながら平和記念式典には参加できませんでしたが、この時間、この場所にいれたことは一生の思い出になりました。

2日間、原爆や戦争、平和について考えるというなかなか忙しい日常では難しいことですが、今を生きる人間にとってとても大事なことです。そのようなとても貴重な体験を息子とでき、関係者の皆さまには感謝しております。ありがとうございました。

最後に、平和記念公園はただそこにいるだけで平和について自然と想いを馳せる、鎮魂という言葉が脳裏に浮かぶ、ここでしか感じるこのできない独特な空気が流れている特別な場所でした。



原爆ドーム

バスツアーを通して思った事

小川 樟也

ぼくは、ツアーを通して、77年前の広島で起きた原爆被害について学んで、原爆のおそろしさを知りました。広島平和記念資料館で人が一発の原爆で苦しみながら死んでいくのを見てあまりにむごくて、思わず視線をそらしてしまいました。こんな事は二度とくり返されてはいけないと強く思いました。

親子広島バスツアーに参加して

小川 智絵

私も息子も広島へ訪れるのは今回のバスツアーが初めてでした。

私自身は、学生時代に長崎の原爆資料館を見学した事があり、当時も原爆の恐ろしさを感じたのですが、母親になって初めて原爆ドームや平和記念資料館を見学し、学生時代には感じる事のなかった感情が胸の中に広がりました。子を原爆で失い悲しみに暮れる親の気持ち、自ら被爆しながらも懸命にわが子を探す親の気持ち、原爆で親を亡くした子の気持ち、想像すると胸がとても苦しくなりました。

被爆体験記朗読会では、朗読を聞き、実際に声に出して読むことで、幼い子供から大人まで、77年前人々がどれほど悲惨な状況にあったのか、を感じる事ができ、朗読会の間中、涙が止まりませんでした。

翌日の平和記念式典では、あいにく規制のため会場内に入ることが出来ず残念でしたが、式典終了後に平和記念公園内の慰霊碑に献花させていただくことができ、一生忘れられない8月6日となりました。

二度と同じような過ちを繰り返さないために、私たちに出来ることは何なのか、を改めて考えさせられる大変貴重な二日間でした。

バスツアーに同行された市職員の皆さま、西宮市原爆被害者の会の皆さまに大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

親子広島バスツアーに参加して

尾上 芯

バスの中では西宮の戦争歴史のビデオを見れて良かったです。

資料館はたくさんの方がいましたが、戦争の写真などをみて怖いと思いました。

ホテルでの戦争の話も怖いと思いました。

とても暑かったので、広島で食べたかき氷がおいしかったです。

参加できて良かったです。

親子広島バスツアーに参加して

尾上 久志

西宮市の親子広島バスツアーに参加させていただきました。旅の2日間、平和式典や資料館などに行きました。

出発時のバスの中では、西宮市の空襲の様子をビデオ映像を通して考えさせられました。私は西宮市がとても大好きで、山も海もありそしてとても住みやすい街だと思っておりましたが、77年前に実際に起きていた事を考えると恐ろしく感じました。初日に行った平和資料館では、写真や映像を見ることができ非現実的な状況にただただ「怖い」と思うばかりでした。そして、この戦争という恐ろしい悲劇が今もこの地球で行われていると思うと悲しくなりました。2日目は平和記念式典に参列しました。

土曜日ということもあり式典会場は非常にたくさんの方々がおられ、海外の方々も多く驚きました。しかし、黙祷の時間になるとそこにだれも居ないような静かな時間が流れ、参列者や広島の人たちは8月6日をとても大切に思っているのがよくわかりました。改めて、こんな恐ろしいことが77年前に実際に日本、広島で実際にあったのだと実感しました。

広島で起きたことを色々観たり、被爆者の方のお話を聞いたりしたことで色々と考えました。今まで当たり前のように幸せに生きていたこと、平和であることに感謝して、これからは今まで以上に大切に毎日を過ごして生きていきたいと思います。

そして、地球が世界が、そこに生きる全ての人々が幸せに生きられるように願っています。

親子広島バスツアーに参加して

海徳 優奈

私は、今回のバスツアーをきっかけに初めて広島に行きました。

事前に知っておきたいなと思い、広島に行った事がある友人に話を聞きました。その時に佐々木禎子さんについて詳しく教えてくれました。原爆の被爆者で、有名な「原爆の子の像」のモデルになっている少女。私は「原爆の子の像」は知っていたのですが、佐々木禎子さんの事は知らなかったのととても勉強になりました。その後自分で佐々木禎子さんについて調べました。そこには、バスツアーで行く「広島平和記念資料館」に佐々木禎子さんのことがかかれていますという情報がありました。早く行ってみたいなという思いが強くなりました。

ついに広島に行く日がやってきました。平和記念公園に行って「原爆の子の像」に折り鶴を奉納しました。すでにたくさんの折り鶴が奉納されていてびっくりしました。こんなにも平和を祈る人がいる事を知って心が温かくなりました。

いろんな場所を見た後に平和記念資料館に行きました。入ってすぐに、壁中に当時の写真が貼ってあり真ん中に立体映像がある部屋に行きました。壁中に写真が貼ってあると自分が本当に写真の中にいるみたいでした。そのあとも小さい男の子や女の子、女性、男性の写真がたくさんあってその横に説明が書いていてとても胸が苦しくなりました。進んでいくと佐々木禎子さんについて説明してあるところに着きました。そこには、佐々木禎子さんがどのように暮らしていたのかや原爆の子の像ができた理由が書かれていました。全てじっくり読んだ後に悲しい気持ちになりました。それと同時にもっと世界中の人にこの場所に来て欲しいと思いました。読み終わると横に禎子さんが折った折り鶴がありました。その鶴はとても小さくて、ずっと病室で折り続けていたのかと思うと本当に原爆なんてなくなればいいと思いました。

このツアーを通してたくさんの事を学ぶ事ができました。町には原爆が残した跡がたくさんありました。これは広島に行かないと分からない事だと思います。原爆の怖さを知ることができました。世界にはまだ原爆がたくさんあります。それも広島の何百倍も威力が高いものです。一日でも早く原爆がなくなることを願います。

親子広島バスツアーに参加して

海徳 真央

今回娘とツアーに参加をし、初めて広島へと訪れました。

私は戦争や原爆について、わかっているつもりでわかっておらず、残酷で悲しく深く知りたくない、どこか避けて過ごしていました。ですが、このツアーを通して、避けてはいけない、風化させてはいけないと強く思いました。

バスの中では被爆体験をされた方々のお話を聞き、77年経った今でも色褪せず、苦しみ、悲しみが伝わってきました。

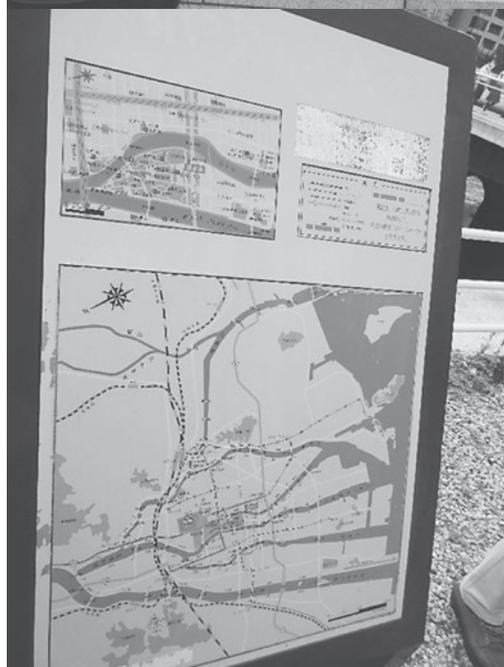
「被爆体験記・原爆詩の朗読会」では、体験した人しかわからない言葉で、当時の残酷

さに胸をしめつけられました。

戦争を知らない私たちがこの想いを風化させずに、次の世代へと引き継いでいきたいと
思います。

この度は、貴重な体験をさせていただき、大変感謝しております。

本当にありがとうございました。



平和記念公園周辺の慰霊碑など

広島バスツアーに参加して

小林 蒼依

原爆というものはそんざいするだけでふこうになる物だと思いました。原爆でひがいにあった人はもちろん、原爆を落とした人もざいあく感やさみしさにつつまれてしまうんじゃないでしょうか。「自分達が生きのこれだから大丈夫」と言う考えは私はあんまり好きではない。自分の命は大切と言うのはありますが自分が生きのこって戦争がおわってもだれも大切な人がいなかったら自分だけ生き残ってもうれしくはありません。人間と言うのはだれでもかなしいきもちや人を思うきもちはあるんですから自分が打たれたきもちになってほしいです。人間という命はだれにとってもはかない大切な命ということをおぼえておきたいです。原爆というのにあやまらない人は原爆のおそろしさをしらないだけです。原爆で亡くなった人たちのためにぞうをたてたりして亡くなった人を思いやるのはすばらしい事だと思った。今私たちにできることはすくないだろうけど亡くなった人たちの思いやる心があれば亡くなった人たちは、また生まれかわったら幸せな暮らしができてまたえがおになれるだろう。また笑がおになると言うのはむずかしいけど、前をむいてえがおに私はなっしてほしい。

広島親子バスツアーに参加して

小林 志帆

今回こちらのバスツアーは、たまたま市政だよりを見て気軽に応募したところから始まりました。広島は一度学生の時に行ったきりで、その後“こうの史代”さんの“夕風の街桜の国”や“この世界の片隅に”を読んで行きたいなと思っていました。

このツアーで良かった所は沢山ありますが、被害者の会のガイドさんのリアルなご説明と元気なパワー、そして地元ボランティアの方による朗読会がとても印象的でした。あたりまえですが、市井の人々の日常が一瞬で崩れる戦争にあらためて思いをめぐらせました。

帰宅後、娘と“千羽づる”という映画を観ました。原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんのお話です。被爆後10年を経て白血病となる原爆の恐ろしさをあらためて知りました。娘も同じ年頃の子が突然亡くなるということにショックを覚えていました。

現在は政治的視野から各国が核を持ち、それを利用しようとしています。おどしの一つとして核をもつことは切り札となっているのです。ウクライナ対ロシアの戦争でも“戦術核”という名のもと核が利用されるかもしれません。私も広島親子ツアーに参加する前はどこか他人事のように思っていました。これを機会に戦争や政治が私達の日々の暮らしに直結していると肝に銘じ、しっかり考えて行動するのが大切だとあらためて思っています。

このたびは企画・運営して下さった市役所の方々、貴重なお話をして下さったガイドの方々、一緒に参加させて頂いた皆様、関わった全ての方に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

広島バスツアーに行ったこと

近藤 信太郎

わたしは、8月5日金曜日から6日土曜日まで親子広島バスツアーにいきました。

広島に着いて、平和記念公園や資料館を見学しました。夜は出前ろうどく会でげんしばくだんという詩をみんなで読みました。

次の日は会場周辺でおいのりをささげました。もう戦争はしませんと言いました。ママとおこのみやきを食べて、お店を出た後ゆいちゃんがアメフトのチアダンスをみせてくれました。

原ばくドームの周りにけい察がいっぱいたのが心に残りました。

(自分のタブレットでうちました。)

「感じる」から始まる

萩原 真

「反戦・平和」を強く希求する両親のもとで育った。

戦争映画や資料展によく連れて行かれ、8歳の誕生日プレゼントは「はだしのゲン」全巻。この国は惨事の反省から、比類なき平和主義にたどり着いたと思っていた。

国連の職員を目指し大学は国際関係学部に進学。安全保障を学び、現実と矛盾を知った。唯一の戦争被爆国として憲法9条と非核三原則を掲げながら、核を保有する軍事大国と強固な同盟を結び、その「核の傘」の下で享受する平和。本当の平和とは？迷いが生じるようになった。

今回のツアーに六年生の息子と参加したのは、子どもたちに伝えねば—というのが一番だが、わたし自身が学び直すためでもある。「見たことを体で感じる2日間に」。出発時の石井市長の言葉が胸に残った。

平和記念資料館は報道などで耳にしていた通り、犠牲になった一人ひとりの人生と家族の思い、核のむごさが苦しいほど胸に迫る。建物疎開に駆り出されていた6000人以上の中高生の命が、一瞬にして奪われた。夜には原爆詩の朗読会があり、高校一年～3歳の3人のわが子と重なり涙がこぼれた。

子に「いもばかり食べさせて」死なせてしまったと母親が自身を責める詩に、朗読ボランティアのかたは「お母さんのせいではない」と言う。確かにそうだが、日本を戦争へと向かわせた責任は、すべての大人にあったのではないだろうか。国の方向を決めるのは“雲の上の政治家”ではなく、わたしたち一人ひとりなのだから。

ロシアによるウクライナ侵攻で「核共有」の議論まで浮上した。この期に及んで核兵器で脅し合う人類とは、何なのだろう。世界から戦争を、核兵器をなくせていない責任の一端が、自分自身にもある。理想論だと言われても、「核兵器は恐ろしい」「わが子も、どの子も死なせたくない」、そんな当たり前の感情をまず深く刻まなければ、どこまで議論して

も偽物の平和にしかたどり着けない。

ともに参加した息子には知的障害があり、どれだけ理解できるだろうとも思ったが、「もう戦争はしません」と手を合わせる姿を見て、心強くなった。大事な土台が築かれた2日間だった。

命の大切さ

小志田 芙菜

私は原ばく資料館の実物や写真を見て、原ばくということの経験をしたことがなかったけれど写真などから苦しみや痛みなどがすごく伝わってきました。被ばく前後の広島市の街地映像を立体模型に投影するスクリーンを、見たら緑の街が一しゅんで真っ黒になっていました。だけど、その半径2キロで三百分の一の威力だと知って三百分の一で広島が真っ黒になってしまうんだったら何百倍何千倍などになってしまうと日本は消滅してしまうかもしれないと考えたらゾッとしました。

千羽鶴の塔のところでは数えきれないほどの千羽鶴がかざられていて、こんなにもたくさんの方が広島に平和を祈りにきてっていると分かってみんな平和が続くように願っているんだと思いました。そしてもう戦争なんか起きてほしくないし原ばくも落とされたくないなと写真や実物を見て身にしみました。特に被ばく者たちが当時の広島を描いた皮ふがただれた人の絵はいまでも忘れられません。そして、日本も他の国もかく兵器をもってほしくないと心から思います。

西宮市原ばく被害者の会の方々原ばくのことや広島のこと、美味しいお土産などいろいろ教えてくださってありがとうございます。原ばくのクイズなども分かり易かったです。本当にお世話になりました。

私が大人になったらこのことを教え受けついでいきたいと思います。

親子広島バスツアーに参加して

小志田 悠史

「むごい・・・むごすぎる！」

平和記念資料館の写真や絵、遺品などを見て僕が思ったのはとにかくむごいということでした。想像の十倍以上のそのむごさや悲しさにはとても驚きました。

8月6日午前8時15分、広島に原爆が投下され死者14万人を超える死者が出たという事は広島に行く前から知っていました。でも、この原爆による被害は数字以上に大きいもので言葉で言い表せない程のむごさ、悲しさ、はかなさがあるということを今回ツアーに参加して実感しました。また、行きのバスでは原爆で家族や家を失った人達の動画をモニターで見たり、武ちゃんの奥さんのお姉さんの話を聞いたりして、僕は原爆投下時を知らないし身近な人が死ぬのを体験したことがないけれど、とてもとてもとても苦しかっただ

ろう、悲しかったらと思うました。もし僕がそうだったらと考えると被爆者やその遺族の方々はとてつもなくすごいし、これからもその体験をたくさんの人に伝えてほしいと思いました。今回のツアーでは、原爆の被害はとてつもなく大きくて今も続いているという事、そしてそれを忘れてはならないという事を学ぶことができました。

今年、ウクライナとロシアの戦争が始まり今もなお続いています。さらにロシアは核兵器の使用をほのめかしています。だから、世界の核兵器への関心が高まっています。そんな今こそ、数百分の一の威力で14万人の命がうばわれたんだぞ、核兵器は原爆の数百倍の威力なんだぞ、という事を発信するべきだと思います。僕も学校みんなに伝えるなど自分でできる事をやり、平和について積極的に学ぼうと思います。このツアーに参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

親子広島バスツアーに参加して

小志田 稚枝

私は今まで西宮で開催される『原爆展』などへ足を運び写真パネルや展示物などを拝見したことはありましたが、広島へ行く機会がありませんでした。今回子供たちと一緒に行くツアーに参加することが出来、それまでは漠然としか話してこなかった戦争について、いろいろな話をするきっかけになりました。

行きのバスの中で被爆体験のお話し、賑やかな繁華街の様子を再現したDVD鑑賞をして広島入りしました。

元安川のほとりでバスを降り原爆の子の像のところで折り鶴を奉納し平和記念公園をお話を伺いながら巡って感じたのは今はこんなに穏やかな街並みだけれど当時は一瞬にして焦土と化し、この川にもたくさんの方が水を求めて飛び込んだのだと思うと胸が締め付けられ苦しくなりました。また静かに佇む原爆ドームを間近に見て核兵器の恐ろしさを実感しました。平和記念資料館では本当にこれが現実にあったことなのかと子供たちも驚いた様子で見入っていました。

2日目の記念式典には会場には入れませんでした。千羽鶴の塔の前で黙祷を捧げることができました。

式典後は西宮市原爆被害者の会の方に公園内のガイドをして頂きながら広島市立高女原爆慰霊碑で献花させていただきました。

今、ウクライナ情勢は緊迫していて世界の平和が揺らぎ始めています。そのような折に広島に来た意味を考えました。戦争が起こりませんように！核兵器が無くなりますように！！

2日間の日程ではまだまだ見足りない内容の濃いツアーでした。子供たちもまた行きたい。式典に参加したいと言っています。

この度お世話になった皆さま、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

親子広島バスツアーに参加して

徳永 茉奈

私は、初めて広島に行って初めて爆だんのことを知りました。平和記念公園にも行って、原爆ドームや子どもの平和像、平和記念資料館などを見て、むねがいたみました。約14万人の人がなくなって、体中のやけどやきず、そして自分の知り合いが死んで、苦しみと悲しみをひきずりながら生きていくんです。子どもの平和像のモデルの「ささき さだ子」さんも1ヵ月でみんなの願望がかなうようにずっとおりづるをおって、なくなった。他にも、何か楽しいことが起きているときなどに原し爆だんがおちて、生きのこった人もが死してしまったり、きずのせいで死んでしまったり、黒い雨（ほうしゃ線）をあびて、なくなったり苦しみながら、死にたくないのに、何も悪いことをしていないのに死んでしまうなんて、とってもかわいそうです。中にもまだ1さいになっていないようなおさない子が死んでしまったりして、なみだが止まりません。でも、戦争について知れてよかったです。理由は、この悲しさ苦しさもあった戦争を友達に話したり、自分でも、もう戦争を起こしてはいけない。戦争はあってはならない。子どもの私に戦争が起こらないように、何をできるかそれはまだ分からないけど、もうあんな悲しみ苦しみ、いたみがなくなるよう、がんばっていきたいです。

親子広島バスツアーに参加して

徳永 明美

【この世界の片隅に】を観て以来、ずっと来たいと願ってた広島ムスメに伝えたいと願っていたことが叶いました☆彡

広島は小学校の修学旅行で行ったっきりで33年ぶり

44歳のわたしは 当時11歳、ムスメも来月11歳

そして あの日から77年…

原爆がなんなのか、77年前のこの日、なにがあったのか、はっきり知らないままのムスメもお出かけっていうことで喜んでいました

すずさんと周作さんが出会った相生橋

佐々木禎子さんをモデルにされた原爆の子の像

記憶では、33年前 対岸から観てたので、こんなに近くで見るのは初めてだと思う

大人になったせいか 想像より小さく感じる

わたしたちが知っているのはこの姿だけ

残っていたら 今でもたくさんのひとたちが集う場所だったんだろうなあ

広島平和記念資料館はリニューアルされて、中は美術館みたいだった

あのリアルなお人形はなくなって、全体的に暗く夜みたいだった…

ムスメは熱心に写真を撮ってました

本館の途中の一角は悲しすぎて痛すぎて直視できずうつむいて早歩きで過ぎた…

なんでこんな目に？

なんで？

なんで…

思い出しても涙でゆらぐ

どんよりとした思いのまま外に出たら噴水から虹がでていました

もし 先祖が広島や長崎にいたら

もし 故郷の県が選ばれていたら

もし もっとたくさん落とされていたら

過去は変えられない

いま、どこにいて、どんな暮らしをしようとして

その生命は繋いでくださった先代のかたがたのおかげで

あの日何も知らないまま息絶えたひとたちの

生きたかったひとたちの生命

このタイミングで広島に来させてもらえたご縁

ほんとに有難く思います



爆心地（現在の島内科）

親子広島バスツアーに参加して

樋川 開世

僕は、初めて広島に行って、原爆のことを知りました。原爆ドームを見て原爆のいりよくがすごいことを知りました。そのあと、原爆資料館にいったら落とされた原爆はじっけんだんかいで、本当は数百倍のいりよくがあったことを知りました。今では、すぐに発射できる原子爆弾が四千発あるそうです。戦争が世界でなくなったらいいと思います。

親子広島バスツアーに参加して

樋川 洋子

この度、小学四年生の次男と参加させて頂きました。バスが出発してまもなく、同行して下さる方々のご紹介があり、西宮市原爆被害者の会の方のユーモアを織りまぜた、楽しいエピソード付きのご紹介がありました。旅の目的より、神妙な面持ちで終日過ごすのだろうと想像しておりましたが、行く先々で、子供にも理解し易い言葉で、戦争の背景や状況を解説して頂きました。その眼差しの奥に伝えなくてはならないという熱意を切に感じ戦争を体験していない世代が、この様なイベントに参加する事の重要性を感じました。

原爆資料館で展示されていた資料で、印象に残ったのは、一面の焼け野原で食べ物も医療用具も乏しい悲惨な状況でも、人助けをしている人々の姿でした。震災でもコロナでもその思いは今にも通じるものであり、大切にしなければならない心を再認識しました。

奇しくも、8月6日は長男の誕生日で、これまでは、大勢の方が亡くなった日と同日なのは複雑な想いでした。ツアーに参加させて頂き、この日に生を受けた事に深い意義を感じましたので、平和で健康に歳を重ねられる喜びを胸に、戦争に想いを馳せる日としたいです。貴重な体験をさせて頂き、感謝申し上げます。

「親子広島」バスツアーに参加して

松本 一汰

日本に原爆が投下されたのは知っていました。投下されて77年というのはこのツアーに参加して知りました。ぼくは広島に行くのは初めてで7月から千羽鶴を家族で折り、糸を通すのをがんばりました。広島では平和記念資料館の見学をしてしょうげきでした。

これが人間のやったことなのか？悲しくなりました。原子爆弾のこわさがあらためてわかり平和の大切さを学びました。

世界の平和をぼくはねがっています。

親子広島バスツアーに参加して

松本 風花

私は小学生の時、修学旅行で長崎に行き、原爆資料館に行った事がありますが、今回のバスツアーで初めて広島原爆資料館を訪れ、改めて核のおそろしさを実感しました。

被爆された中には現在においても後遺症などで苦しんでおられるお方がたくさんいらっしゃることを知りました。平和は大事ということを知っているはずなのに、今なお世界で戦争が起きています。

世界ではまだたくさんの核兵器が存在しています。それを、少しずつでも無くしていく、少なくして行ってゼロにする。それが私たちに残された課題だと思いました。思い通りにいかないことがあっても武力で解決するのではなく、皆が納得して安心して暮らせる様な平和な世界と創っていきたいです。

「親子広島バスツアーに参加して」

松本 凜華

今回のバスツアーで初めて広島に行き、原爆ドームや原爆資料館を見学しました。広島戦争の様子などの話を聞き、現地で見学もすることで今まで以上に戦争について考えることができました。広島に旅行に行くだけでは学ぶことができないことを、親子広島バスツアーで経験できました。終戦から77年経過しているため、実際に戦争を経験した方は今後さらに減っていくと思います。見学して学んだことやバスの中で聞いた話を後世に語り継いでいき、戦争や平和について学ぶきっかけにしたいと思いました。



地元ボランティアによる被爆体験記朗読会

親子広島バスツアーに参加して

水田 志穂歌

私は、初めて広島に行って楽しかったけど資料館は、こわかったです。親子広島バスツアーも初めてですごく不安でした。ツアーの関係者さんも親切な方々で面白くて良い人達でした。ホテルやバスもすごく良くてホテルの近くには、コンビニエンスストアや居酒屋、チェーン店などもありました。バスの中は、エアコンもあり万能でした。平和資料館では、広島県でしか見れないような恐怖、驚き、悲しさ、学び、などの気持ちがありました。式典での黙祷の時は、すごく静かでセミの鳴き声しか聞こえませんでした。戦争は、怖くて、同じ人でも人がやる事とは、思えません。ロシアとウクライナとの戦争は早く終わってほしいと思っています。少しでも戦争、ケンカなどで人がイヤな思いをしてほしくないです。1人でも死んでほしくないです。このバスツアーで学んだことがたくさんあります。行くと色々な気持ちになれます。お世話になりました。

親子広島バスツアーに参加して

水田 奏志

ぼくは、中学一年生で広島は一回行ったことがあるけど、二回目行ってもすごく楽しかったです。また機会があったら普通に広島に行きたいです。
平和記念式典に行って黙とうした時にシーンを静かになったのが印象的でした。
もう二度と戦争はしてはいけないと思った旅でした。

親子広島バスツアーに参加して

水田 武志

初めて平和式典に参加しました。
会場内には入れなくとも、公園外にはものすごい数の人々が集っており、会場外もすごい人数でうめつくされていました。
もくとうが始まる前は、人々の雑踏、騒めきがありましたが、いざもくとうが始まると鐘の音とセミの鳴き声のみの非日常の音声。
その時、頭の中では、この瞬間に原爆がおとされ、もくとうが終わる一分後には地獄の光景が広がっていたのかと想像しました。
たった一日、戦争のおそろしさをしっかり学び、資料を見て、話を聞く。それだけでも二度と戦争はしてはならない、おこしてはならないと痛感しました。軽い想像をごく一般的な一般人が感じる事が安易にできるのに世界はまだ戦争をしています。自分の周りの人、子供達、いつかまたそんな危機がおとずれた時、声を上げれる人になりたいです。

広島に行って思ったこと

三好 蒼空

今回広島に行って思った事は原爆は本当にこわくて、おそろしい物だと改めて感じました。二回目の広島での原爆資料館でしたが、六年生に見た時とくらべて、今中学二年生の僕が見たいんしょうは、原爆は人に死をあたえるのではなく、死もそうとうな事ですが、死の上の地獄をみせている物だと思います。原爆が落とされたこの広島の人々は、原爆のおそろしさをしっていると思うので日本全国の人も、特に広島、長崎の人は原爆をあまく見てはならない物だと思います。

今回は本当に再度確認できて良かったと思います。

「平和」

三好 真季

私は初めて広島へ訪れました。

いつか行ってみたいなと思いがあり、このような親子ツアーがあるのを知り応募しました。今まで、小学生の頃から色々な場面で戦争について学び、中学の修学旅行では、長崎へ訪問、大人になってからは、テレビ等メディアのみでしかふれる事はありませんでした。今回初めて広島へ訪れ最初に目にしたのが原爆ドーム、とてもショックでした。私が思っていたよりも一目で原爆の酷さや恐怖を感じたと同時になぜここまでしなくてはいけなかったのか？と同じ人として悲しくなりました。資料館での見学も、本当に目を背けたくなる様な写真、焼けこげた衣服、三輪車、食べかけのお弁当箱、核兵器の残酷さを目の当たりにしました。

夜には被爆体験記の朗読会で、今井泰子さんの体験記を聞かせていただき、涙がこらえられませんでした。私には中二、小六、小二の男の子がいます。

同じ年頃の子供をもつ親としては、とても辛い気持ちになり、知らない場所でたった一人逃げ、そしてたった一人で亡くならなければいけなかった事。

それが77年前現実におこっていたと言う事をもっと世界中の人に知ってもらい、原爆と言うものが世界を平和にしていくものではない事を知ってほしい。今現在も戦争をおこしている国がある・・・そこに何がうまれて、何を失っているのかをもっと考えるべきだと思う。世界中にこの日本でおこった悲劇、どちらが悪い、良いではなく現実を見てほしいと切に願います。

「真夏のヒロシマバスツアー」

村上 蓮

8月5日と8月6日の2日間、親子バスツアーに行きました。

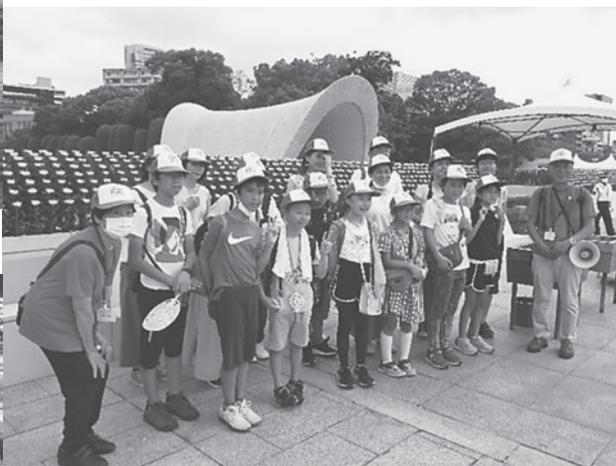
広島までは、バスで6時間ほど。広島に着いたら千羽鶴を持ちました。お父さんの持っていた千羽鶴を持ってみたら本3冊入りの図書バッグの1.2倍ある位重かったです。その後、原爆の子の像で、鶴を吊るして平和記念公園を回って行きました。平和祈念式典へ向けての準備だったり、西宮のように、似たような帽子をかぶっている団体などでけっこうにぎわっていました。次に、平和記念資料館に行きました。入場せいげんもしていました。そして入ってゆっくり見ていました。が、じっくり見ることはちょっと難しかったです、まるで、満員電車に乗っているような気もしました。でも、はく力があり、歴史が分かったので満足しました。資料館を出たらバスで広島ダイヤモンドホテルへ。部屋で休んだら、ごはん！でもめっちゃ量がありました。修学旅行より、カロリー高いと思います。大人でも残しちゃうほどですから…。ごはんを食べたら被爆体験朗読会。トップバッターで朗読したのはよく覚えています。詩「弟」を朗読しました。2日目は、5時20分に起床。朝ごはんを食べる時間が15分前後で、朝からつかれました。食後は、急いで準備して、バスに乗りました。式典から少し距離があったので、音がきこえずらかったのですが、動画で様子を見て平和をいのりました。式典後、路面電車に乗りお土産を買いました。もみじまんじゅうを沢山買いました。その後は、お好み焼き村へ。お好み焼きの店がめっちゃあって、どれもおいしそうでした。食べているともうギリギリ！急いでバスへ歩きました。みんな歩くのが速かったのでしんどかったです。最後バスに乗って帰りました。改めて来れたので、また学べて良かったです。

「建物疎開という言葉を知って」

村上 雅彦

私が、これまで広島原爆について学んだのは、小中学生の修学旅行で、30年近く前のこととなります。当時も平和記念資料館に行き、被爆者の方から体験談を聞き、漠然とした記憶ですが、子供ながら「怖いなあ」と思った記憶があります。今回広島バスツアーに参加させて頂き、子を持つ「父親」としての視点から原爆について学ばせてもらう事が出来ました。私が印象に残ったワードは「建物疎開」で、戦時中は中学生以上の学生が空襲に備えた作業に従事していたことを初めて知りました。そして、建物疎開に行くかどうか、行った場合の配置先によって運命が左右され、沢山の子ども達が犠牲になっている事に衝撃を受けました。その子どもたちの一人が、自分の子供であったと考えると、とても辛い気持ちになり、二度とこのような事があってはならないと強く感じました。そして、平和祈念式典の参列は叶わなかったものの、原爆が落とされた時間、場所で黙とうを捧げられたことで、当時の光景を想像して「重み」を感じる事が出来ました。慰霊碑についても、公園内には沢山の慰霊碑が存在していることを知り、献花させていただけたことで、一層平和に対する思いが強くなりました。そしてもう一つ印象に残ったワードは、武居氏が話され

た「今の核兵器は原爆の300倍」で、原爆でさえ甚大な被害であるのに、私たちが生きる現代では、核兵器一発で国を滅ぼす威力があるのだと恐ろしく思いました。私たちが生きる現代では、核が数千とあるわけですから、一部の国に地球を滅ぼす力があると考えれば、核兵器は絶対にあってはならないと強く思いました。今回は本当に貴重な経験をさせて頂き、とても為になり、有意義なものでした。唯一被爆国の日本国民として、私の身近な人から広島での原爆の事、核兵器の恐ろしさについて話して行きたいと思います。



公園周辺を散策

「親子広島バスツアーに参加して」

森崎 友惟

私は、いつもテレビで見ていた原爆ドームを生で見てその迫力にとっても驚きました。平和資料館では、展示されている人の写真がお化けみたいで怖いと思いました。また、「焦土と化した都市」のところでは、原子爆弾投下前、投下直後の広島の様子が映し出されていました。私はたった一発の原子爆弾でこんなにも被害が出るのだなと思いました。帰りのバスで、武居さんが「今の核兵器は広島に落とされた原子爆弾の数百倍で、使用されると地球は終わる。」と言っていました。私は色々な国がエコ活動をしたりしているけど、核兵器を廃絶させることが本当のエコだと思います。

親子広島バスツアーに参加して

森崎 聖美

私と娘は、初めて広島に行きました。

私は学生の頃、学んだ原爆の恐ろしさを目の当たりにして、なんて酷い事が起きてしまったのだろうと、改めて思いました。原爆ドームや資料館を見学して、胸が張り裂けるような思いでした。

たった一発の原子爆弾で大勢の命を一瞬で奪い、一命を取り止めても後遺症に苦しむ人々がたくさんいるという核兵器。その核兵器が世界にはまだ約一万三千発もあり、また劣化ウラン弾など原子爆弾同様に、放射線障害を引き起こす爆弾もあります。

今、世界には戦争をしている国や集団があります。その為、いつそのような爆弾が使われるか分かりません。私は広島や長崎を通じて、核兵器の恐ろしさを世界中の人々に知ってもらい、爆弾を無くして欲しいと強く思います。

子供たちの未来がかけがいのないものになることを願っています。娘と参加させて頂きとても勉強になりました。ありがとうございました。



令和4年度 親子広島バスツアー行程表

日程表

8月5日（金）		8月6日（土）	
8:30	西宮市役所前で出発式 （雨天のためバス車中で）	6:00	朝食
9:00	出発（バス） ↓ ↓ 高速道路 ↓	6:40	出発（バス）
14:30	広島到着（原爆ドーム前） 折り鶴奉納 平和記念公園 平和記念資料館 など見学	7:00	平和記念公園に到着
17:00	平和記念資料館 出発	8:00	平和記念式典が開催 会場周辺で祈りをささげる
17:30	宿舎（広島ダイヤモンドホテルに到着）	9:00	式典終了 出発までは自由行動 【原爆被害者の会の方に平和記念公園内の碑の説明等をしていただきました（希望者のみ）】
18:00	夕食	13:00	出発（バス） ↓ ↓ 高速道路 ↓
19:15	地元ボランティアによる出前朗読会 原爆被害の概要（ビデオ上映）、被爆体験記・原爆詩の朗読 など	18:30	西宮市役所前に到着
20:30	終了		

※やむを得ない事情により内容を変更させていただく場合があります。

平和非核都市マーク



平和非核都市 西宮

宣言を記念して昭和 59 年 (1984 年)4 月に一般公募し、7 月に「平和非核都市マーク」を制定しました。地球を二羽のハトで包み込み、恒久平和への願いを表現しています。

平和非核都市宣言

青い空、緑の大地、そして、おだやかな暮らしは、
わたくしたち西宮市民のみならず、
平和を愛するすべての人の願いです。
そんな平和への願いとはうらはらに、
世界はおろかにも人類を何十回も滅ぼすほどの
核兵器を蓄積しました。
核戦争に未来はありません。
恐ろしい核兵器をつくってはならないし、
持つてもいけないし、持ち込ませてもなりません。
わたくしたちは、
世界中に核兵器の廃絶を強く訴えるときともに、
平和を愛する社会をはぐくみ、築くことを誓い、
平和非核都市をここに宣言します。

昭和五十八年（一九八三年）十二月十日

西宮市